

## 第 77 回日本医学会定例評議員会

平成 22 年 2 月 24 日 (水) 於・日本医師会館小講堂

午後 3 時開会

**議長**(高久日本医学会長) 時間になりましたので、第 77 回日本医学会定例評議員会をただ今から開催いたします。ご多忙のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。本日の評議員会の定数は 107 名ですが、現在 103 名のご出席をいただいております。1/2 以上の方の出席ですので、この会議は成立しています。

### 日本医師会会長挨拶

**議長**(高久日本医学会長) 日本医師会長の唐澤先生は本日ご欠席で、副会長の岩砂先生にご挨拶をよろしく願います。

**岩砂日本医師会副会長** 今ご紹介いただきました日本医師会の岩砂でございます。唐澤会長は所用で出席できませんので、代わりにご挨拶申し上げます。

政界では、ご存じのとおり、舵取り役であります新しい政権が「コンクリートから人へ」のスローガンを掲げておりますが、国民医療に関しましては、今までの経済・財政優先が招きました医療崩壊を建て直し、国民の健康と幸せを願う医療体系に変えていかねばなりません。

言うまでもなく、医師は、ヒポクラテスの理念の下、患者の生命を守るために努力してまいりました。今後もその努力をしていかねばなりません。

さて、日本医師会では、平成 22 年度から生涯教育制度のカリキュラムをより充実しました。このカリキュラムを修得することによって、総合的診療能力をもつ総合診療医(仮称)の能力をさらに高めてまいります。このことは、何よりも、地域医療を支える大切な活動と考えております。カリ

キュラムを作成するに当たりましては、日本プライマリケア学会、日本家庭医療学会、日本総合診療医学会、日本老年医学会、日本臨床内科医会、日本小児科医会、日本専門医制評価・認定機構のご協力を得ました。日本医師会は、生涯教育制度を継続することにより、医療活動を総合的により良いものにすることを目指しております。

また、国民の健康を守るべき医療・医学については、日本医師会は日本医学会と共に両輪の輪のごとく活動していかなければなりません。それには、医師のみならず、医療従事者すべての結束が大切であると常日ごろ考えております。そして、皆様方共々、日本の医療を守っていききたいと考えておりますので、よろしく願います。

簡単ではございますが、唐澤会長に代わりましてご挨拶をさせていただきました。どうもありがとうございました。(拍手)

**議長**(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。

### ■議事録署名人指名

**議長**(高久日本医学会長) それでは、議事録の署名人をお願いしたいと思います。議事録の署名人には、日本病理学会の長村先生と、日本外科学会の里見先生のお 2 人によりお願いいたします。

### ■次第(議事概要)説明

**議長**(高久日本医学会長) 次に、本日の議事の概要ですが、まず、報告事項として第 28 回日本医学会総会の準備状況の報告、2009(平成 21)年度日本医学会年次報告、協議事項として 2010(平成

## 第 77 回日本医学会定例評議員会出席者名簿

日本医史学会	酒井 シヅ	日本交通医学会	花岡 一雄	日本生殖医学会	(連) 苜原 稔
日本解剖学会	河田 光博	日本体力医学会	吉岡 利忠	日本救急医学会	有賀 徹
日本生理学会	(代) 小山 真人	日本産業衛生学会	(連) 柳澤 裕之	日本心身医学会	野村 忍
日本生化学会	(連) 北 潔	日本気管食道科学会	甲能 直幸	日本医療・	
日本薬理学会	(代) 三品 昌美	日本アレルギー学会	西間 三馨	病院管理学会	(連) 上塚 芳郎
日本病理学会	長村 義之	日本化学療法学会	戸塚 恭一	日本消化器	
日本癌学会	野田 哲生	日本ウイルス学会	柳 雄介	内視鏡学会	(連) 税所 宏光
日本血液学会	(連) 三谷 絹子	日本麻酔科学会	武田 純三	日本癌治療学会	幕内 博康
日本細菌学会	光山 正雄	日本胸部外科学会	田林 暁一	日本移植学会	寺岡 慧
日本寄生虫学会	太田 伸生	日本脳神経外科学会	寺本 明	日本職業・災害医学会	阿部 裕
日本法医学会	中園 一郎	日本輸血・		日本心臓血管外科学会	高本 眞一
日本衛生学会	佐藤 洋	細胞治療学会	高橋 孝喜	日本リンパ網内系学会	森 尚義
日本民族衛生学会	丸井 英二	日本医真菌学会	渡辺 晋一	日本自律神経学会	岩田 誠
日本栄養・食糧学会	橋詰 直孝	日本農村医学会	(連) 別所 隆	日本大腸肛門病学会	望月 英隆
日本温泉気候		日本糖尿病学会	門脇 孝	日本超音波医学会	田中 幸子
物理医学会	猪熊 茂子	日本矯正医学会	(連) 加藤 昌義	日本動脈硬化学会	下門顕太郎
日本内分泌学会	中尾 一和	日本神経学会	葛原 茂樹	日本東洋医学会	(連) 秋葉 哲生
日本内科学会	寺本 民生	日本老年医学会	大内 尉義	日本小児神経学会	(連) 大野 耕策
日本小児科学会	横田 俊平	日本人類遺伝学会	稲澤 讓治	日本呼吸器外科学会	近藤 丘
日本感染症学会	岩本 愛吉	日本リハビリテーション		日本医学教育学会	伴 信太郎
日本結核病学会	渡辺 彰	医学会	(代) 上月 正博	日本医療情報学会	田中 博
日本消化器病学会	菅野健太郎	日本呼吸器学会	貫和 敏博	日本疫学会	(連) 山口 直人
日本循環器学会	(連) 和泉 徹	日本腎臓学会	槇野 博史	日本集中治療医学会	(連) 福家 伸夫
日本精神神経学会	鹿島 晴雄	日本リウマチ学会	(欠)	日本平滑筋学会	(代) 柴田 近
日本外科学会	里見 進	日本生体医工学会	(連) 安藤 讓二	日本臨床薬理学会	川合 眞一
日本整形外科学会	(連) 三浪 明男	日本先天異常学会	塩田 浩平	日本神経病理学会	(連) 池田 和彦
日本産科婦人科学会	吉村 泰典	日本肝臓学会	井廻 道夫	日本脳卒中学会	天野 隆弘
日本眼科学会	根木 昭	日本形成外科学会	(欠)	日本高血圧学会	藤田 敏郎
日本耳鼻咽喉科学会	(連) 小川 郁	日本熱帯医学会	狩野 繁之	日本臨床細胞学会	平井 康夫
日本皮膚科学会	飯塚 一	日本小児外科学会	岩中 督	日本透析医学会	秋澤 忠男
日本泌尿器科学会	内藤 誠二	日本脈管学会	重松 宏	日本内視鏡外科学会	(欠)
日本口腔科学会	戸塚 靖則	日本周産期・		日本乳癌学会	園尾 博司
日本医学放射線学会	(連) 大友 邦	新生児医学会	岡井 崇	日本肥満学会	齋藤 康
日本保険医学会	白水 知仁	日本人工臓器学会	(欠)	日本血栓止血学会	(代) 新井 盛大
日本医療機器学会	(連) 安原 洋	日本免疫学会	高津 聖志	日本血管外科学会	(連) 安達 秀雄
日本ハンセン病学会	後藤 正道	日本消化器外科学会	杉原 健一	日本レーザー医学会	古川 欣也
日本公衆衛生学会	小林 廉毅	日本臨床検査医学会	宮澤 幸久	日本臨床腫瘍学会	大江裕一郎
日本衛生動物学会	松岡 裕之	日本核医学会	伊藤 健吾		

(連)：連絡委員 (代)：代理出席 (欠)：欠席

役員	高久会長、岸本・久道・矢崎各副会長
(幹事)	森本、池田、今井、吉本、奥村、八木、齋藤、門田、北村、名和田、實成、古瀬 (欠席：清水、篠田、金澤、幕内、篠原、中村)
総会	(第 28 回) 矢崎会頭、永井準備委員長、山崎幹事長 (オブザーバー) 事務局 藤
日医	岩砂副会長、飯沼常任理事

22) 年度日本医学会事業計画ならびに 2009 (平成 21) 年度日本医学会加盟学会の件をご審議いただきまして、最後に日本医学会長、副会長ならびに幹事の選挙を行っていただきたいと思います。

## 日本医学会長挨拶

**高久日本医学会長** 次の議事として、日本医学会長の挨拶になっています。

平成 21 年度の年次報告のときにも申し上げますが、こういう社会状況ですので、いろいろな問題について日本医学会としての意見を表明したいと考え、かつ努力をしてきました。まだまだ不十分な点があると思いますが、各学会の皆様方のご協力を得て、学会としての意見を社会に述べていく努力を今後とも続けていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

## 第 28 回日本医学会総会準備状況報告

**議長**(高久日本医学会長) それでは次に、第 28 回日本医学会総会準備状況のご説明をよろしく願いいたします。

**矢崎第 28 回日本医学会総会会頭** 日本医学会総会を開催するところの矢崎でございます。どうぞよろしく願いします。

開催まで余すところ 1 年となりまして、学会の皆様のご支援をよろしく願いたいと思います。

第 28 回日本医学会総会の開催趣旨と内容については準備委員長の永井先生からご説明いただきますが、私は、少しその背景をご説明したいと思います。

近年の医学・医療の進歩は目覚ましく、新しい病態の解明が遺伝子レベルでなされ、完成度の高い治療法が確立されて、がんなどの難病の多くが治る疾患となりました。その結果、国民は治療効果への絶対的な期待、医療の成果主義を求めるようになっていきます。しかし、医学・医療が高度化するに従って複雑化し、その不確実性はむしろ高まっているともいえます。さらに、経済の停滞による医療費抑制政策の影響も大きくなっておりま

このような医学・医療を取り巻く環境の厳しい変化に対し、日本医学会総会において医学・医療の進歩についての情報発信をするとともに、わが国の医学および医療のあり方を問い、国民の皆さんに医学・医療が抱える現状についての理解を深めるための総合的な取り組みを行っております。

また、学術プログラムの組み立ても、日本医学会分科会の皆様にテーマをお願いしました。通常、主幹校が大体まとめるところでございますが、私どもが 107 学会の日本医学会分科会の皆様にテーマをお願いしたところ、日本医学会は最初から酒井先生と総会で医学史展を行うということになっております。また 105 学会から複数の 442 の企画案をいただきまして、分科会の皆様の総会への関心の高さを本当にありがたく思いました。それをすべて生かせるように、257 のセッションに反映させまして、演者、座長もそれぞれの学会からご推薦をいただきまして、学術委員会で検討して、最終的なプログラムを今組み立て中でございます。この場をお借りしまして先生方のご協力に心から御礼申し上げたいと思います。

先ほど申し上げましたように、開催まで余すところ 1 年となりまして、学会の皆様のご支援、ご支持をよろしく願ひ申し上げます。

それでは、永井準備委員長から説明をよろしく願ひします。

**永井第 28 回日本医学会総会準備委員長** 準備委員長を務めさせていただいております東京大学の永井でございます。どうぞよろしく願ひいたします。

今、矢崎会頭からご説明がありましたが、今回の特徴といたしまして、まず学術面では、分科会からいろいろなテーマ、プログラムをボトムアップ型で組み立てていただいたということ。特別企画として、たとえば勤務医セッションであるとか、メディアと連携した公開シンポジウムという形で、広く開かれた形に企画しております。

全体のテーマは「いのちと地球の未来をひらく医学・医療—理解・信頼そして発展—」ということでございます。お手元の年次報告の 1 ページ目に準備状況が掲載されておりますので、ご覧いた

だきながらお聞きいただければと思います。

会期は来年(2011年)の4月8日(金)~10日(日)の3日間でございます。ただ、それに先行いたしまして博覧会が東京ビッグサイトで4月2日(土)~10日(日)、学術展示が4月7日(木)~10日(日)、さらに、3月末から上野の国立科学博物館で、日本医史学会のお世話で医学史展示を行う予定となっております。

学術講演関係では、プログラム、シンポジウム、パネルディスカッション、教育講演等257セッションがすでに決定しております。そして、特別講演、特別企画、勤務医問題、市民公開プログラム等の準備が現在進んでおります。

また、日本医師会認定産業医で、最大10単位の取得が可能になるように用意しております。

展示関係は、登録者向けの学術展示として「知・技」プロフェッショナルの展開(仮)」というところで、これは東京フォーラムで予定しております。一般市民向けに「わくろう医学 つくろう!健康 EXPO 2011」ということで、大がかりな展示博覧会が予定されておりますし、さらに丸の内エリア一帯でもサテライト企画が予定されております。

また、今回もう1つの特徴として、参加登録料が少し安くなり、事前登録の場合、30,000円のところが25,000円に、また、11名以上一括登録されますと1名分が無料になるということで、団体割引システムを導入しております。この事前参加登録は、3月3日から明年1月31日までの間に行っていただければと思います。「第28回日本医学会総会」というホームページに入っておりますとすぐ分かるようになっております。

そのほかの準備状況としまして、前回、東京で開催されましたときに、第25回日本医学会総会記念の新書を「医の現在」というタイトルで岩波書店から発刊いたしました。今回は「医の未来」というテーマで現在執筆者を決定して準備を始めております。

そのほか、ソーシャルイベントとして運動系、文化系の14種目の実施を予定しております。

会期・会場は資料に記載しているとおりです。

以上でございます。

議長(高久日本医学会長) どうもありがとうございます。ありがとうございました。多くの方のご参加を希望しています。

## 2009(平成21)年度日本医学会年次報告

議長(高久日本医学会長) それでは、議事に従いまして、報告事項の最初として、平成21年度の日本医学会の事業についてご報告をいたします。お手元に「日本医学会年次報告」という冊子があると思いますが、これをご覧になっていただきます。

2ページですが、最初が「日本医学会シンポジウム」。これは従来から行ってきたシンポジウムで、主に医師を対象としたものでして、第136回シンポジウムは、昨年7月2日に「がんの集学的治療の最前線—食道がん・胃がんを中心に—」という題で開催し、12月3日には第137回シンポジウム「抗体療法の新しい展開」という題で開催しました。このシンポジウムの内容はDVDまたは「Onlineライブラリー」で皆様方にご覧いただけるようになっておりますので、興味のある方はどうぞご覧いただきたいと思っております。

次に、4ページ目を開いていただきます。「日本医学会公開フォーラム」、これは平成17年度から、一般の方に医学・医療、特に医療の問題を理解していただきたいということで開催することになりました。昨年は、第8回公開フォーラムとして「メタボリックシンドローム—糖尿病—」ということで6月20日に、また10月10日には、同じく「メタボリックシンドローム—高血圧—」という題名で、おのおの438名、298名という多数の一般の方の参加を得ています。この公開フォーラムも、シンポジウムと同じようにDVDならびに日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項で映像配信をしています。

日本医学会幹事会は、先ほど開催されました。次に、6ページを見ていただきます。ご案内のように、日本医学会は、平成19年度から従来の各分科会の区分けを変えて、臨床部会と社会部会、さらに基礎部会の3つに分けました。

臨床部会のなかに臨床部会運営委員会をつくら

せていただき、運営委員会はかなり頻繁に開催していろいろな問題を討議していますが、特に昨年の5月26日の運営委員会では、当時、臓器移植法の改正が国会で話題になっており、日本移植学会の寺岡理事長から、臓器移植に関して日本医学会としてもアンケートを行い、かつ方針、意向を表明していただきたいというご要望がありました。そこで、日本医学会としてはA案を支持することに決定いたしました。5月27日に開催した記者会見で、日本医学会としては、日本医学会分科会からのアンケートに基づいて、臓器移植法についてA案を支持することを表明いたしました。

さらに、臨床部会の運営委員会のなかに専門医制に関する作業部会をつくらせていただきました。その作業部会は、問題の性質上、日本専門医制評価・認定機構の専門医あり方委員会との合同の委員会として、日本の専門医のあり方について、日本医学会と機構が一緒になってディスカッションを行うということで、6月26日に合同の委員会を開催しています。

7ページの8.臨床部会運営委員会診療関連死に関する作業部会は、部会長が山口 徹 日本循環器学会前理事長ですが、この問題に関連しては、一昨年、7月28日に日本医学会の主催で「診療関連死に関する公開討論会」を開催し、多数の方がこの会館にお集まりいただき、活発な議論が行われました。

なお、この診療関連死に関して、ご存じのように日本内科学会を中心にして、調査分析モデル事業が5年間にわたって行われてきましたが、一応5年間というお約束の予定でした。日本内科学会だけでこのモデル事業を遂行するのは非常に負担が大きいということで、日本医学会が仲介する形で日本内科学会と日本外科学会、日本病理学会、さらに日本法医学会のおおの理事長あるいは理事長代理の方に集まっていたいただきました。今回、厚労省のほうからこのモデル事業について補助金も引き続いて出るようになっていきますので、新たな法人をつくって、その法人を介してこのモデル事業を継続し、日本医学会としても積極的に協力する。日本医学会は法人になっていませんので、

会長として協力するというのをこの学会の方々に申し上げました。

なお、この問題に関しましては、日本心臓血管外科学会もこの事業の新しい法人のほうに加わりたいというお申し出があったと聞いています。

また、この問題に関しましては、私がお手元の資料にあると思いますが、モデル事業の継続と第三者機関の設立についての要望書を手渡してまいりました。山口先生にまとめていただいたのですが、今までの5年間のモデル事業のまとめについても足立政務官にお渡ししてまいりましたので、厚生労働省あるいは民主党のほうでも配慮していただければと考えています。

日本医学会の社会部会では、Japan CDC(仮称)の創設に関する作業部会が、昨年11月24日に開催されました。議事としては、Japan CDC(仮称)創設の提言に至る経緯について、また、先進国における類似の機構について、日本におけるCDC機能のあり方について、また、今後の作業部会の活動計画についての議論がなされました。第2回作業部会は、今年の1月13日に開催されています。

さらに、日本医学雑誌編集者組織委員会が平成20年に発足いたしました。委員長は東大の北村聖教授ですが、第3回の会合を昨年5月22日に開催しています。日本医学会分科会機関誌の編集の現状に関するアンケート調査の件、さらに日本医学雑誌編集者会議の総会・シンポジウムについて話し合われまして、この「日本医学雑誌編集者会議の総会・シンポジウム」が昨年7月17日に開催されています。

次に、10ページの下の方の13.日本医学会医学用語管理委員会、開原先生が委員長です。医学用語辞典は日本医学会の編集によるものです。分科会の先生方のご協力で編集していますが、南山堂から発行しています「日本医学会医学用語辞典英和」第3版の販売がほぼ完了したものですから、医学用語辞典(英和)のオンライン版を日本医学会の分科会の会員の方ならびに都道府県医師会の会員の方に限って無料で利用していただくこ

とに決めました。これはオンライン版ですので、各分科会からのご要望あるいは管理委員会の問い合わせによって、コンスタントに内容を新しくしています。分科会の会員の方は新しい医学用語辞典をオンライン版でご覧になることができますので、ご利用をお願いしたいと思います。

11 ページの日本医師会医学賞・医学研究助成費選考委員会に関しては、ここにありますように、今回は、基礎、社会、臨床（外科）の3人の方が日本医師会医学賞を受賞しておられます。12～13 ページには、日本医師会医学研究助成費を受賞された方の研究題名とお名前が載っていますので、ご覧になっていただければと思います。

日本医学会加盟検討委員会は、11月18日に開催されています。後の協議事項のところでもたご報告したいと思いますので、よろしく願いいたします。

13 ページの下の日本医学会あり方委員会、これは平成16年度に発足しており、金澤先生が委員長です。昨年12月9日に開催され、その前に各分科会に対して、日本医師会と医学会の関係とか、いろいろなことについてのアンケートをお願いし回答が得られましたので、そのアンケートの結果について意見の交換を行いました。そのなかで、日本医師会との関係をどういうふうにするのかということについての意見が数多く表明されていたので、定款の変更を含めて従来から医師会の幹部の方々と私が話をしておりましたが、今年の2月12日には、日本医師会長、副会長ならびに常任理事の一部の方と日本医学会の会長、副会長ならびに幹事の一部とで、かなりフランクに定款の問題について意見交換をいたしました。ただ、定款は日本医師会の代議員会による変更が必要ですので、なお継続して検討していただく必要があると思っています。

最後に、診療報酬改定の前に、日本病院会の方々から、医学会としても診療報酬の改定をプラスのほうにという要望を出していただきたいという要望がありまして、日本医学会の臨床部会運営委員の方々のご相談いたしました。その後、全国医学部長病院長会議の小川会長ともご相談いたしまし

て、日本医学会と全国医学部長病院長会議の両者からの要請として、鳩山由紀夫内閣総理大臣以下、関連の大臣、政務官の方々に陳情書を出しています。お手元にその資料があると思いますので、ご覧になっていただければと思います。

14～15 ページには、日本医学会で開催したいろいろな会議、シンポジウムあるいは委員会の開催数が書いていますので、ご覧になっていただければと思います。

## 2010(平成22)年度日本医学会事業計画

議長(高久日本医学会長) 引き続きまして、平成22年度日本医学会事業計画をご報告したいと思います。これもお手元に資料がありますので、それをご覧になっていただければと思います。

平成22年度の日本医学会事業計画は基本的に先ほど申し上げた平成21年度の事業の継続ですが、新たに始める事業といたしましては、お手元の4ページにあるように、日本医学会臨床部会利益相反委員会を設置することにいたしました。Conflict of interest (COI) が各学会で問題になっていまして、いくつかの学会でCOIに関するガイドラインをつくっておられますが、やはり日本医学会として統一したガイドラインをつくる必要があるのではないかというご意見があり、徳島大学の曾根教授を中心に6人の委員構成で、法律に関係する方も入っておられますが、日本医学会として利益相反に関するガイドラインの作成を平成22年度から開始する予定です。

その他のことにつきましては、一応平成21年度の事業を引き継ぐことになると思いますが、このような時勢ですので、必要に応じて日本医学会としていろいろな要望や意見を発信したいと思っております。各分科会の先生方も、必要に応じて日本医学会のほうに情報を発信するよう、あるいは意見を表明するように申し出ていただければ、一緒にご協力申し上げたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

## 2009(平成21)年度日本医学会 新規加盟学会

**議長**(高久日本医学会長) 次に、協議事項2)平成21年度日本医学会加盟学会の件について、これは久道委員長からよろしく願いいたします。

**久道加盟検討委員会委員長** 平成21年度の加盟検討委員会の報告をいたします。

本年度は25の学会から加盟申請がありました。今年度の加盟検討委員会を昨年(平成20)の11月18日に開催しましたが、委員は13名で構成されております。委員の名前は、年次報告の13ページに記載されていますが、そこで例年と同じような基準で各学会から出された申請書を各委員の方々に事前にお送りして、その25学会のなかで5つ以内を選んでいただくというやり方、しかもその5つ以内に1~5の点数をつけていただきまして、それを集計しました。

その集計を基に11月18日の加盟検討委員会でいろいろと議論いたしました。今配付している資料にありますように、今回は日本呼吸器内視鏡学会を推薦することとしました。その推薦理由と評価内容の要約につきましては、配付資料に書かれていますので、全部は朗読いたしません。

日本呼吸器内視鏡学会の概要あるいは沿革については前段のほうに記載してあります。学会の活動状況、会員数、役員、医師の役員数等々についての構成は、ここに記載のあるとおりであります。特に委員会としては、この学会の独自性、必要性、それから最近は社会貢献性ということも含めて評価をすることになっていまして、この日本呼吸器内視鏡学会は、25の申請された学会のなかで点数が飛び抜けて高くなっておりました。昨年は2学会を推薦して認めていただきましたけれども、今回は、25の学会のなかで飛び抜けた学会がこの学会、それから2番手、3番手の学会が少し点数が離れているということもあわせて、加盟検討委員会の総意としては、日本呼吸器内視鏡学会1つを推薦することになりました。

「総合的判断として」と書いてありますが、ここだけちょっと読ませていただきます。「本学会は気

管支鏡に加えて胸腔鏡、縦隔鏡を用いて呼吸器という専門性の高い臓器を対象として、その基礎から臨床に至る幅広い領域をカバーする学問体系を構築する独自性の高い学会であり、その社会的必要性も増すものと思われ、会員数の増加からみても今後ますます活発な活動が期待される。国際学会の開催や世界気管支学会との共同で欧文機関誌も編集発行しており、分科会としてふさわしい学会」というふうに加加盟検討委員会では考えまして、先ほど開催されました幹事会で承認を得ましたので、本評議員会に提案することといたしました。よろしくご審議をお願いいたします。

**議長**(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。

今、久道先生のほうからご報告がありましたが、どなたかご意見はありますか。よろしいでしょうか。

それでは、お認めいただきたいと思います。

### 役員選挙

**議長**(高久日本医学会長) それでは、引き続きまして、会長、副会長、幹事の選挙に移りたいと思います。この時点で議場を閉鎖することになりますので、よろしく願います。

今から候補者の方々の一覧表を配付します。

(候補者名簿配付)

**議長**(高久日本医学会長) お手元に候補者の一覧表があります。会長、副会長に関しましては、推薦者が1名だけの方は、先ほど開催された幹事会で外させていただきます。推薦者2名以上の方が候補になっています。

### 選挙立会人指名

**議長**(高久日本医学会長) 開票の立ち会いは、基礎医学系から日本癌学会の野田哲生先生、社会医学系からは日本法医学会の中園一郎先生、臨床医学系からは日本産科婦人科学会の吉村泰典先生によろしく願いいたします。

### 会長選挙

**議長**(高久日本医学会長) 最初に会長の選挙で

すが、先ほど開催された幹事会で、会長の候補になっている私が司会をするのは少しおかしいというご意見が出まして、会長の選挙のときは幹事の池田先生にご司会をお願いしたいと思います。

それでは、池田先生、よろしく願います。

**池田幹事** 池田でございます。大変僭越ではございますけれども、幹事会でご指名をいただきましたので、会長の選挙についての司会をさせていただきますと思います。

会長の選挙に当たって、候補者として、お手元にある高久先生、矢崎先生、岸本先生が推薦されております。先生方のお手元にある資料7をご覧くださいと思いますが、この資料7には「学会長および学会副会長の選挙に関する内規」というものが記載されておりますので、どうぞ一読いただきたいと思います。

次期会長1名を選ぶわけですが、あらかじめ各分科会の評議員から推薦を求めるということでございまして、その各分科会の評議員の先生から上がってきた推薦者がここに記載されているということでございます。

選挙方法は、そこに書いてございますけれども、「評議員会において各評議員の投票によって行う」、「投票資格者は評議員であるが、評議員が投票できない事情がある場合には、その評議員の属する分科会の連絡委員が代わって投票を行うことができる」、「学会長は、評議員の中から選挙立会人3名を指名し」ということで、ただ今高久会長のほうからお願いした次第でございます。

「学会長および学会副会長の選挙は、いずれも、同日中にこれを区別して行う」ということでございますので、まず、会長の選挙をお願いするということでございます。

「3. 当選人の必要得票数」というのが書いてございまして、「学会長および学会副会長の選挙においては、有効投票の総数の3分の1以上の得票を得なければならない」、「前項の場合において、3分の1以上の得票を得た者がいないときは、有効投票の最多数を得た者2名をもって候補者とし、学会長および学会副会長の選挙を行う」、こういう内規がございます。「選挙に関して疑義が生じたとき

は、現学会長が評議員会にはかって決定する」、ということですので、これに従って選挙をさせていただきたいと思いますが、選挙の方法について、何かご質問の方がいらっしゃればご発言願いたいと思います。特にございませんでしょうか。

もしないようでしたら、投票用紙をお配りしますので、会長候補の3人の方のうちのお1人を先生方に投票していただいて集票したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは投票用紙を配ってください。

(投票用紙配付)

**池田幹事** 投票用紙は行き渡りましたでしょうか。よろしいですか。用紙のない方がいらっしゃいましたら挙手をお願いしたいと思います。よろしいですか。

(投票執行)

**池田幹事** もう投票をお済ませでしょうか。記名が終わっていない方はいらっしゃいますか。

ないようでございますので、それでは集票をお願いしたいと思います。

大変申しわけございません、日本癌学会の野田先生、日本法医学会の中園先生、日本産科婦人科学会の吉村先生、立ち会いをお願いいたしますので、あちらのほうにお願いいただけますでしょうか。

(事務局員投票を計算)

**池田幹事** 開票が終わりましたので、結果をご報告したいと思います。立会人の野田先生、中園先生、吉村先生のサインをいただきました。

有効投票数が102票でございます。したがって、内規において1/3以上の得票を得なければならないということで、1/3というのは34票でございます。

結果を申し上げます。

高久史麿候補 87票

矢崎義雄候補 8票

岸本忠三候補 5票

でございます。

以上で、高久先生に会長をお願いすることになりました。

以上です。ご協力ありがとうございました。

議長(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。

### ■副会長選挙

議長(高久日本医学会長) それでは、副会長の選挙をお願いしたいと思います。副会長は、基礎と社会と臨床で色が分かれていますので、同時に選挙をしていただければと思います。候補の方は、お手元にあるように、基礎は岸本先生、清水先生、奥村先生、成宮先生。社会は久道先生、實成先生、佐藤先生、森本先生。臨床は矢崎先生、門田先生、池田先生、齋藤先生の4人となっています。おのおの4人のなかからお1人ずつ色分けした投票用紙に候補者の名前をご記入いただきたいと思

います。

よろしくをお願いします。

(投票用紙配付)

(投票執行)

議長(高久日本医学会長) 投票を終了いたします。今から集めてください。

(事務局員投票を計算)

議長(高久日本医学会長) それでは、開票の結果をご報告いたします。

基礎のほうか

岸本忠三候補 60票

清水孝雄候補 21票

奥村 康候補 12票

成宮 周候補 6票

あと、野本明男先生、和泉孝志先生が1票ずつであります。

社会のほうは

久道 茂候補 86票

實成文彦候補 4票

佐藤 洋候補 3票

森本兼襄候補 3票

あと、池上直己先生が1票、白票5票であります。

臨床のほうは

矢崎義雄候補 44票

門田守人候補 46票

池田康夫候補 4票

齋藤英彦候補 5票

幕内雅敏先生が1票ということでありまして、岸本先生、久道先生、門田先生となりました。

どうもありがとうございました。

### ■幹事選挙

議長(高久日本医学会長) 引き続きまして、幹事のご投票をお願いしたいと思います。

幹事は、基礎と社会と臨床に分かれていまして、基礎は1名、社会も1名、臨床は5名をお手元にある候補者一覧のなかからお書きいただきたいと思

います。臨床の方は5名連記で書いていただきますので、よろしくお願

いいたします。5名以内は

いいのですが、6名書くと無効になりますので、5名あるいは5名以下でお願いいたします。

(投票用紙配付)

(投票執行)

(事務局員投票を計算)

議長(高久日本医学会長) 少し開票に時間がか

かっていますし、5時から第28回日本医学会総会の記者会見がありますので、恐れ入りますが、少

し議事を進めさせていただきたいと思

います。

第29回の日本医学会総会の開催地に関してで

すが、今までの経緯を考え、また、いろいろな方

にご相談申し上げて、京都で開催をお願いするこ

とにいたしました。

本日、京都大学大学院医学研究科長の光山先生

がご出席ですので、光山先生、突然で恐縮ですが、

ご挨拶をいただけますでしょうか。

光山評議員(日本細菌学会) ご指名でございますので、一言ご挨拶を申し上げます。

京都大学大学院医学研究科長・医学部長を仰せ

つかっております光山と申します。

第29回の日本医学会総会は2015年だと思

いますが、私どもを中心に京都・近畿地区で力を合

わせまして、新しいタイプの総会を運営させてい

ただくということで、このたびご承認をいただ

いたと了解いたしております。まだ何も準備が始

まったわけではございませんけれども、私どもと

しましては、井村裕夫京都大学名誉教授を会頭と

しましてこれから準備を始めてまいりたいと思

ております。どうぞよろしくご支援、ご指導をいただきますようお願い申し上げます。(拍手)

**議長**(高久日本医学会長) 光山先生、よろしく願いいたします。

第28回日本医学会総会について、永井準備委員長から少しご連絡したいことがありますので、よろしく願いします。

**永井第28回日本医学会総会準備委員長** お手元に「資料8」と書いた白い封筒がございます。この中に、今回の医学会総会の趣意書あるいは展示の計画、あるいはプログラムの簡単なお案内、ご紹介がございます。

お願いしたいのは、まず、チラシが入っております。この裏に登録の方法が記載してございます。今回から、登録は基本的にWEB登録であるということで、ぜひWEBサイトにアクセスしていただいて登録いただきたいと思っております。

また、このチラシ、あるいは今回壁に張っておりますけれども、大判のポスター、こういうものを先生方の各分科会の学会総会るとき、あるいは関連する講演会るときに掲示もしくはチラシの配布、こういうことをお願いしたいと思っております。

さらに、事前登録をしていただきますと、オリジナルグッズがおまけでご提供できますので、ぜひ教室の方々にご案内いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

**議長**(高久日本医学会長) どうもありがとうございました。

それでは、幹事の投票の結果です。基礎のほうは1名でありまして、成宮 周先生が最高得点を取っておられます。社会のほうは實成文彦先生が1位になっておられます。臨床のほうは5名です。金澤一郎先生、幕内雅敏先生、岡井 崇先生、里見進先生、寺本民生先生の5名の方が幹事に選ばれました。どうもありがとうございました。

## 次期会長、副会長挨拶

**議長**(高久日本医学会長) それでは最後に、会長、副会長の挨拶となっております。

**高久日本医学会長** もう時間がないので簡単に申し上げますが、今回も引き続いて会長をやることになりましたが、日本医学会として社会にいろいろなことを積極的に発信していきたいと思っておりますので、分科会の先生方のご協力をよろしく願いいたします。

**岸本日本医学会副会長** 再度、基礎部門担当の副会長に選んでいただきまして、ありがとうございます。

日本医学会も、日本医師会との関連等、どのようにあり方を変えていくとか、いろいろ問題もありますし、最近、大学で医学の研究にチャレンジしようという若い人もだんだん減ってきているような状況で、未来の医学にもいろいろ問題がある。もうしばらく少しでもお役に立てればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

**議長**(高久日本医学会長) それでは、久道先生、よろしく願いします。

**久道日本医学会副会長** 3期目の再任をいただきました久道です。ほかの副会長の先生方と協力して、高久会長をサポートするような仕事をやっていきたいと思っておりますので、皆さんのご協力をぜひお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

**議長**(高久日本医学会長) 新たに選ばれました門田先生は、どうしても出席しなければならない会議があるということで、矢崎先生、ご挨拶いただけますか。

**矢崎日本医学会副会長** 今までご支援をいただきましてありがとうございました。門田先生には、日本医学会のさらなる活性化にご尽力いただければと思っております。どうもありがとうございました。(拍手)

**議長**(高久日本医学会長) それでは、これをおまじまして評議員会を終らせていただきます。長時間にわたりましてどうもありがとうございました。(拍手)

午後4時42分散会